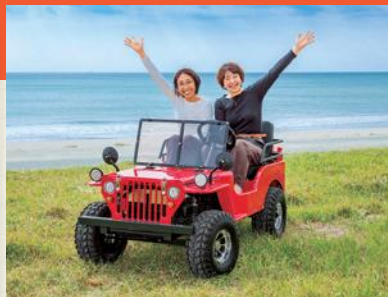




取材を終えて

最終巻となるクラストコ。今回、さまざまな場所で編集者が体感した「地域との支え合い」、そして、クラストコを通じて感じた「豊橋の魅力」とは。



Profile

クラストコ編集部(左)
ウガモト ヨナシロ デミ

豊橋市広報広聴課3年目職員。
就職を機に豊橋へ。

クラストコ編集部(右)
岩下 加奈

豊橋市在住、編集者・ライター。

街に対する想いから支え合いが生まれる

校区ごとに特色が違い、豊橋の面白さを知った

岩下 豊橋には52の校区があり、今回はその中からピックアップして紹介したのですが、各校区で特色が全く違ってとても楽しかったですね。

ウガモト 二川校区は桜だけでなく、昔ながらの街並みも校区全体で守っており、嵩山校区ではスポーツを通じて、地域が明るくなっていました。前芝校区は小さな街で育つ子どもたちを校区全体で見守っていました。それぞれの特徴を生かした支え方があり、全てが豊橋ならではのなごみと実感しました。

岩下 校区内の絆が強く、皆さん「この街が好きだから!」という想いでいろいろと活動していることも知りました。

ウガモト 津田校区では、子どもと大人が関われる場所を作ることで校区内の絆を強くしたり、天伯校区では高齢化が進む中で知恵とアイデアで校区全体を支え合っていたり。幸区は、「花祭り」があり子どもから大人まで、みんなが花祭りを盛り上げていたのも印象的でした。

岩下 牟呂校区は、お店が協力し合ってイベントを立ち上げたり、豊岡発展会は、岩田運動公園で大きなフェスをしたりとパワフルな団体もたくさんありましたね!花園ぶらすは、愛知大学の学生を中心に若い世代が商店街を盛り上げようと企画をしていて、外の視点から地域を支えるという素晴らしい学びました。



地域や人を思いやることで「支える」が生まれる

岩下 今回取材をした方に「あなたにとって“支える”とは?」という質問をしました。皆さん共通していたのが「街が、人が好きだから、支えてもらっているし、支えたい」という言葉でした。

ウガモト 私も取材を通して、自分の中で「支える」とは何かと改めて考えましたが、支えるとは「相手を思いやること」と同じように思いました。相手を思いやることができるから、力になってあげられるし、何かしようと思き出すのだから。

岩下 ずっと暮らしていく地域に自分なりの思いやりがあるからこそ、活動したい、盛り上げたいという気持ちになるのかなと思いました。

ウガモト そうですね。長く住んでいるからこそ、街や人への想いが増えていき、支える力になっていきますね。



5年間の取材を通して知った豊橋の魅力

クラストコを通じての豊橋の良さ=なんでもある街

岩下 5年間、クラストコの取材をし続けてきて思ったことは、「豊橋ってなんでもあるじゃん」ということ。「なんにもない」と言われますが、なんでもあるからこそ、その良さに気づきにくいのかなと。改めて、豊橋って暮らしやすいなと思いました。



ウガモト 自然が広がる景色、みんなが集う表浜海岸、昔ながらの景色、お祭りなど、さまざまな姿を見せてくれる豊橋には、飽きさせない魅力がたくさんありますね。どの年代でも自分に合った楽しみ方や学びができるし、自分に合った暮らし方ができるのは、なんでもある豊橋だからだと感じる事ができました。



クラストコ

BackNumber

ライフステージに沿った豊橋ならではの女性の暮らし方を提案する



VOL.01 楽しむ
平成29年3月発売



VOL.02 働く
平成30年3月発売



VOL.03 育つ
平成31年3月発売



VOL.04 学ぶ
令和2年3月発売